日本鐵鋼協會記事

理事會　昭和7年1月20日(水曜日)午後5時開會　**出席者**　俵　國一君、河村　驍君、渡邊三郎君、香村小錄君、三島德七君　**協議事項**　1) 第2回工學會大會鐵鋼協會部會順序大要決定に關する件、2) 編輯委員の更迭の件(別項)　3) 入退會者承認　4) 本會評議員工學博士原田鎭治君逝去に關する件、5) 其他本會事業に關する諸件、**報告**　1. 現在會員數　2. 收支報告、以上を審議議了し直ちに服部博士記念資金委員會に移れり。

第三回服部博士記念資金委員會　昭和7年1月20日(水曜日)午後6時、日本鐵鋼協會事務所に於て開會　**出席者**　委員長　俵　國一君、幹事　河村　驍君、渡邊三郎君、委員　加藤　榮君、香村小錄君、水谷叔彦君、三島德七君　**協議事項**　1) 昭和七年度服部賞牌及賞金受領候補者審査の件、2) 賞牌製作費に關する件、3) 資金收支決算報告等にして午後8時 10 分散會す。

編輯委員會　昭和7年1月13日午後5時開會　**出席者**　俵會長、田村宣武君、山田良之助君、三島德七君、鹽澤正一君、廣瀨政次君、開會前俵會長より新委囑委員山田、田村兩委員を一同に紹介され直ちに協議に移れり　**協議事項**　1. 鐵と鋼第 18 年第1號卷頭へ故本會評議員工學博士原田鎭治君の肖像及小傳を掲載する件、2. 鐵と鋼第18年第2號掲載原稿選定の件。

選定論文

1. 砂鐵鑛の濕式處理に關する研究‥前田六郎
2. 耐酸鋼の探究……多賀谷正義
3. 熔融狀態に於ける鑄造用輕合金銅合金及び鑄鐵の粘性に就て(補遺)……松川達夫
4. 鑄造時に於ける中子の內部壓力に就て……內藤逸策
5. ターバラス舗裝に就きて……谷宗雄

以上にして午後8時散會す。

編輯委員更迭　編輯委員海老原敬吉君は昭和4年1月本會編輯委員囑託され以來本會の爲め盡力されたる事多大なるも外遊の故を以て昨年 12 月限り退任されたり。そして編輯委員2名缺員ありたるを以て次記2氏を委囑し本年1月より就任の御承諾を得たり。

編輯委員

陸軍砲工學校教官砲兵少佐工學士　田村　宣武君
〃　東京工業大學教授工學博士　山田良之助君

入會者承認

居所又は宛名先	勤務先及職業	會員別	入會者氏名	紹介者
兵庫縣尼ヶ崎市西向島町二(尼ヶ崎 2(3)	耐火煉瓦工場	正	旭硝子株式會社煉瓦工場	齋藤大吉 西村秀雄
埼玉縣大宮崎町鐵道官舍二六號	工學士　東京鐵道局大宮工場	〃	山口貫一君	俵國一 池田正二
横濱市鶴見區鶴見町東寺尾二、一〇三	工學士　横濱船渠會社試驗室	〃	藤井忠二君	俵國一 室井嘉治馬
岩手縣釜石町鈴子合宿所	釜石鑛業所	〃	中鉢三郎君	藤村哲之 大貫富藏
栃木縣足尾町渡良瀨社宅	古河鑛業會社足尾鑛業所	准	大津虎夫君	村松橘太郎
仙臺市片平町東北大學金屬材料研究所	工學士	〃	岸本浩君	村上武次郎
八幡市製鐵所第三分塊工場	南滿鐵道鞍山製鐵所	〃	大岡敏行君	景山齊
廣島市大須賀町二葉の里	工學士吳海軍工廠製鋼部	〃	堀田秀次君	村松橘太郎
神戸市林田區御藏通り四ノ一(港川凹六六九)	合名會社神戸鑄鐵所	〃	堀田正文君	芦原光太郎
八幡市製鐵所骸炭課		〃	伊能泰治君	平川良彥
八幡市西本町八丁目谷石彌八郎方	製鐵所第一工作課	〃	中島岩俊君	村松橘太郎

日本鐵鋼協會第七回講演大會狀況（其2）

本會の講演大會は既に回を重ぬること六回に及びたるが、第七回はこれを再び八幡市に開催する事に協定成り、製鐵所技監野田鶴雄博士を委員長に推して本年初夏新緑の候より着々計畫の歩を進め、玆に昭和6年10月17日より同月21日に至る五日間に亘り講演會、工場見學、研究部會よりなれる大會を擧行するに至れり。

參會者實に190有餘名、大會のプログラムは秋晴れの空の下に豫定通り順調に進行し、座しては貴重なる高論卓說に、出でては諸般の工場見學に幾多の收穫ありしを疑はず。

本大會が斯く豫想以上の盛況裡に終始し得たるは、是偏に關係諸官衙、諸會社の多大なる御援助と會員の熱誠とに依るものにして本會の感謝措く能はざる所なり。（總務係）

第七回講演大會委員氏名

擔任	氏名	擔任	氏名
委員長	野田鶴雄君	宿舍係	岡崎泰助君
委員		〃	水谷浩君
總務係	景山齋君	〃	永松秀夫君
〃	井村竹市君	〃	日高政一君
〃	庄野猶平君	〃	古海募君
〃	島田亮一君	記錄係	山縣愷介君
講演係	久保田省三君	〃	田川淺次郎君
〃	田所芳秋君	〃	高橋說次郎君
〃	角野尙德君	〃	小城信一君
〃	小平勇君	〃	谷口光平君
〃	植地保君	〃	大庭禎三君
接待係	鵜瀞新五君	見學係	黑田泰造君
〃	城正俊君	〃	中原津君
〃	波江野繁君	〃	足立元二郎君
〃	平川良彥君	〃	安永渡平君
〃	海野三朗君	〃	一本木清三君
〃	山岡武君	〃	伊能泰治君
〃	楠野哲夫君	〃	野村壽俊君
宿舍係	景山齋君		

援助委員

黑崎窯業株式會社支配人	高良淳君
安川電機製作所社長	安川第五郎君
安田製釘株式會社支配人	瀧川岩太郎君
戸畑鑄物株式會社	堀岡利一君
東海鋼業株式會社	鈴木柚藏君
淺野製鋼株式會社取締役	末兼要君
東京製綱株式會社工場長	香月五郎君
九州帝國大學工學部教授	井上克巳君
明治專門學校教授	嘉村平八君

（總務係報）

第2日　晩餐會

10月18日晝間の日程を終りて午後6時半より小倉市新魚町の料亭津田倉に於て晩餐會を開催したり、出席者は來賓及び會員にて總員107人に達し極めて盛況を呈す、劈頭俵會長挨拶を述べ本次大會の順調なる進行を欣びて來賓に感謝し又會員の勞苦を犒ひたるに對し九州製鋼會社取締役安川清三郎氏來賓を代表して謝辭を述べたり、次いで製鐵所より寄贈せられし同所新製品の不銹鋼盃に付野田製鐵所技監より說明を加へられたり、夫れより酒杯動き美味佳肴は席を埋めて山の如く酒間を斡旋する紅裙は小倉及び八幡の精を選りて凡そ三十餘、北九州の艷花悉く此に鐘るの觀あり、特に料亭主人の好意によりて總て紋服を以て侍す、會者各胸襟を開きてよく談し歡笑團欒、和氣靄々として座に溢る、宴酣なる頃美妓乃ち交々舞臺に起ちて舞ひ且つ歌ひ興趣愈々湧くが如し。「松葉浴衣」「勢獅子」「多摩川」の至藝終りて鄕土情調濃かなる「鎭西小唄」「小倉小唄」「八幡小唄」「鐵の都」等を演じ遂に妓悉く列つて配盤の間を巡舞し喝采更に擧り歡興夜と共に盡くる所を知らざりしも午後9時半に至りて宴を閉じたり。（接待係）

第3日　工場見學

10月13日　月曜日　製鐵所及安田製釘工場見學

午前9時黑崎驛前停留所に集合約80名、製鐵所の自動車7臺に分乘し南方約4kmを隔てたる養福寺貯水池に到る。貯水池は上津役村字引野の高臺にあり、洞海灣附近の眺望をおさめ得て風景甚だ佳なり。池の周圍2km 300m, 170萬m^3の容量を有し、河内貯水池と共に大製鐵所の主要水源池たり。貯水池見學後再び黑崎停留所に引返し、これよりは各自電車にて製鐵所東門に到り、其他參集者と共に午前10時半より18班に分れ延長10kmの構内行程を、案内係に率ゐられつゝ或は徒歩にて或は3臺の構内列車を利用して見學す。先づ東門附近の硫酸、タール、ベンゾールの各工場より初め骸炭工場を經て第六鎔鑛爐の出銑を見、列車にて第二製鋼工場北側にて下車し、同工場、第二、三大形、第三分塊、第二中形、第三小形及第二厚板の各工場を南北に縱貫し再び列車に乘

り試料採集所に至り、試料の處理及列品室を見學し又汽車にて鍼力工場に至る。鍼力、中板等の工場は、鐵鋼市場に暗雲低迷の不況時代にも拘らず市況の强調に惠まれ居るため自然一般見學者の興味を呼び延々長蛇の如き見學者の流れも兎角停滯し勝ちなり。豫定を狂はせまじとする汗だくだくの見學係の連絡にて、鍼力、中板、第六分塊工場及タルボット等一巡して乘車し、セメント及鑛滓煉瓦工場の側を徐行しつゝ列車内にて作業上の説明あり、耐火煉瓦工場にて下車見學後更に乘車して午後1時頃埋立地洞岡の食堂に到着す。製鐵所より晝食の饗應あり、室内は萬國旗にて裝飾され歡迎氣分横溢す。俵會長杯を擧げて本大會に於ける製鐵所の盡力に對し謝辭あり、野田技監之に答へられ次で東北帝大本多總長の發聲にて大會の萬歲を三唱す。終つて最新式を誇る洞岡鎔鑛爐及同骸炭工場を見學し製鐵所本所の見學を終る。

斯て小蒸汽船二艘に分乘して洞海灣を渡り枝光棧橋に上陸、2時半過ぎ安田商事株式會社枝光製釘所に到る。先づ同所事務所前の天幕内にて茶菓の饗應あり、繪ハガキや同所製品の釘形火箸を贈られ暫時休憩中、支配人瀧川岩太郎氏より工場作業の概略説明あり、乃ち當枝光工場は明治45年作業を開始し、原料は製鐵所より製釘用特種線材の供給を受け他の追從を許さゞる優良製品を出し最近の生産高は65萬樽に上り漸く洋釘の輸入を防遏するに至れる由なり。それより數班に分れて、原料の洗滌乾燥、製線、製釘、磨釘、釘詰、包裝の順に極めて合理的に配置されたる工場を一巡見學す。午後3時半過ぎ同所を辭し、製鐵所運滓鐵道(電鐵)の宮田山隧道手前にて用意の列車に乘り長き隧道を通過して戸畑東海岸に出で、製鐵所戸畑作業場(東洋製鐵株式會社の委任經營)に到着下車、骸炭工場及鎔鑛爐等を見學す、これらの裝置は凡て八幡工場と大同小異にて特記すべき事なし。深き興味に驅られ凡てを忘れて終日見學に專念せられし會員の面上には流石に疲勞の色讀まれ、西門前の泥田停留所にて散會せしは午後5時なりき。

第4日　　工場見學

10月20日　火曜日　工場見學第一班

午前9時電車田町停留所に集合、會員110名を超ゆ、直ちに安川電機製作所に到り應接室にて茶菓を饗せられ、營業案内やカタログの配付あり社長安川清三郎氏初め安川第五郎氏及び布目技師長の挨拶に次で數班に分れ各種獨特の點につき見學並に説明を受く。當所は大正4年開業され日尚淺きも既に優良品に於て定評あり各方面の工業並に鑛山方面に信用厚し而して大は4,000K.Wより1、2馬力の小モーターに至り標準型につき努力さるるが如し。見學を終りて同社及黑崎窯業會社より提供の自動車にて黑崎窯業に到る。天幕内に設けられたる席にて茶菓を饗され、取締役兼技師長高良　淳氏より陳列の煉瓦見本に就きて説明あり、當社は硅石煉瓦の生産を主とし年間總生産能力36,000瓲の由なり。繪ハガキ、工場概要、製鋼爐用硅石煉瓦等につきての册子を受く、亦會員原田公氏は同氏のコールマイザー(黑崎窯業にて製作)につき説明さる。工場見學を終りて、製鐵所の委任經營中の九州製鋼株式會社に自動車にて到着、製鋼工場、壓延工場等を順次見學し午前11時半同所岸壁にて製鐵所蒸汽船2隻に分乘し若松築港會社の築港平面圖を手にし、同社々員及び製鐵所足立、進來兩技師の築港の説明を聞きながら汽船行き交ふ洞海灣を航行し正午戸畑漁港岸壁に上陸す。漁港は洞海灣商港の一部をなせる一文字埋立の岸壁を占め市營臨港鐵道岸壁に沿ひ布設され、製氷冷藏工場、製罐工場等軒を並ぶ、漁網漁具の供給、鮮魚の販賣、運送等の機關の整備は勿論食堂浴場理髮所宿泊所雜貨販賣所等に至る迄完備し遠洋近海漁船の寄港に必要なるあらゆる施設を有し本邦唯一の模範的漁港なり。漁業關係會社建並ぶ中を先づ共同漁業株式會社に到る。同社は戸畑漁港に集中せる諸會社の株式の過半數を所有する母體にして、所屬トロール船48隻、15,500瓲冷藏運搬船460瓲にして其漁場は近くは渤海黃海支那東海より遠きは安南海或はベーリング海(3,000浬)に及ぶ。先づ階上の食堂にて其漁獲に係る遠洋の冷凍魚(1ケ年以上冷藏のもの)を調味せし晝飯に舌鼓を打ち、專務國司浩助氏より漁業に關する興味深き説明を聽く。同社概要、冷凍魚に就て等の册子を配付さる。黑田見學委員より謝辭あり。次で千種萬樣の魚族の陳列を見、研究室を經て階下にて、トロール船より陸上げ、貨車積する實況を見學す。それより隣接の冷藏會社に到る。會社は我國最新の製氷會社にして製氷能力一晝夜300瓲年間賣上70,000瓲を超ゆ。主として漁業關係會社及市場に集中する漁船に供給す、尙製氷藏部の外に漁港部を設け漁業に關する水陸全般の施設を經營せる由なり。製氷、冷藏を見學す、鮮魚を洗ひ箱につめ零下30度にて冷凍する實況は最も興味あり、戸畑漁港についての册子を分配せらる。夫より豫定時間に追れつゝ戸畑製罐株式會社に向ふ。同社は獨特の機械設備を以て驚くべき速力にて各種罐詰用空罐を1日數10萬個製造すその實況亦會員の足を止む。さて戸畑鑄物株式會社提供の自動車にて約4丁を隔てたる同社戸畑工場に到着す。先づ茶菓を饗せられ工場長堀岡利一氏の挨拶あり、カタログ、營業案内、工場概要等を受け數班に分れて研究室、鑄物、木型仕上、組立の各工場及發送場等

を順次見學せり。同社は外に若松、東京及大阪の各市にも工場を有し、黑心可鍛鑄鐵、トバタ鋼鑄物を特長とし、當工場としては、戸畑陸船用石油發動機及トバタ揚水ポンプ其他を製造す。見學終つて徒歩にて漁港岸壁に返り午後3時過ぎ曩の汽船にて若松市海岸に渡航し東海鋼業株式會社に到る。常務取締役鈴木杣藏氏より工場概況の說明あり茶菓の饗應に預り營業案內を手にして見學す、主に鋼板製造中なりき。當社は八幡製鐵所より鋼片鋼塊の供給を受け壓延加工す、製造能力年間、鋼板及條鋼を合せ60,000瓲なり。次いで徒歩にて約2丁を隔てたる戸畑鑄物若松工場に到り見學す。工場長岩澤市松氏說明さる、主にチルドロール、サンドロール並にインゴツトモールド等を製造す。斯くて當日の見學を豫定通り終了し再び乘船、戸畑棧橋に引き返し午後5時頃解散したり。

10月20日　火曜日　工場見學第二班

午前9時小倉驛前停留所に集合直ちに淺野製鋼所に向ひ先着の數氏と合し會員33名なり。やがて事務所階上の廣間にて茶菓を饗せられ、淺野總一郎翁一代記圖解、小倉築港及同市地圖並に特に小倉市より贈られたる「のびゆく小倉」、同市交通名所圖繪及市制三十周年記念繪ハガキ等を受けたり。同所末兼專務上京中の由にて支配人清宮岳壽氏より鄭重なる御挨拶あり、次で庶務課長永見半次郎氏初め數氏に案內せられて見學す。同社は丸鋼、平鋼、線材を造り年間60,000瓲を產出す努力主義の模範工場なり、午前10時見學を終り希望者10數名は同社の蒸汽船にて淺野埋立の現在及將來等につき說明をきゝつつ沖を迂回し、其の他會員は東京製綱會社差廻しの自動車數臺にて同工場に至り應接室にてカタログ數册宛及小倉埋築竣工地平面圖等を受け茶菓の饗應に預りながら製品の陳列を參觀す而して香月工場長より約20分に亘り工場概要につき說明あり、次で數班に分れて見學す。面白き作業と興味ある研究狀況とに對し懇切なる說明あり豫定の時間延び勝ちなり正午頃同社の自動車にて砂津停留所迄送られこれより電車にて大里驛前下車大里櫻ビール株式會社に到着す、此處にて野田委員長參會、直ちに工場案內と云ふ小册子を手にし5,6人宛の班に分れ見學す。同工場は恰も例年の季節的休業中なりしに拘らず特に大會見學者の爲めに瓶詰等一部作業をなしたるため面白く見學するを得たり。階上廣間にて同社製品生ビール及スタウトを提供され青木專務よりビールに就きての面白き談話を聞きつゝ戸畑水產食堂調理の辨當を開き愉快に中食を終る。それより徒歩にて數丁を隔てたる大日本製糖會社に至る、午後2時過なり。同工場も折惡しく定期檢定時にて休業中なりしが先づ應接間にて茶菓を饗せられ工場長小倉和市氏より我國糖業の沿革につき興味深き談話あり時の過ぐるを知らず。繪ハガキ及作業系統の册子等を配付され數班に分れて見學す。當工場は粗糖を臺灣より取寄せ精製し南支方面へ多量の輸出をなしつゝありと云ふ。こゝを終りて大里東口にて電車に乘り白木崎着、淺野セメント會社に至り、會員は全部白き上衣を纏ひ、工場長綠川政藏氏初め數人の技術員の方の案內にて一巡す。この工場は淺野セメント工場中最大設備を有するものにて年產150萬樽に上る由、200尺のロータリーキルンを初め製樽室、荷役中の船舶、試驗室等隈なく見學後應接室にて茶菓飲料に1日中の疲勞を醫しながら談笑、鵜瀞委員より同社に對する謝辭並に會員に對し大會終了につき挨拶ありて和氣靄々裡に散會す、時既に薄暮なりき。

第5日　　工場見學

10月21日　水曜日　隨意見學

前日第一、二班に分れて見學せし爲、見落したる工場の內、安川電機製作所、黑崎窯業株式會社、戸畑鑄物株式會社(戸畑及若松工場共)東海鋼業株式會社、淺野製鋼株式會社、東京製綱株式會社小倉工場及び新に明治專門學校、製鐵所の河內貯水池、大谷會館並に購買部(本部及大谷分配所)等を會員各自隨意に見學す。河內貯水池見學には、製鐵所にて自動車を準備し大藏停留所より往復せり。

前記各工場に於ては前日多數會員の見學に多大の便宜を圖られたるのみならず本日も亦三々五々隨意見學の會員を懇切に案內せられたる厚意に對し感謝に堪へず、尙小倉市九州電氣軌道株式會社より會期5日間通用の電車全線無賃乘車券を提供され多大の便宜を得たり、而して見學日は幸ひにも連日好晴に惠まれ豫定通りの見學を滯りなく終へたり。(見學係報)

退會者承認　正員　高見和平　准員　高橋金次、山本源八、藤井鐵三、高井秀雄、堀　辰雄、久慈維四郎、出羽善治、津留陳貫、熊谷光雄、柳澤俊郎、龜甲谷憲太郎中村富雄　以上

死亡者

本會評議員工學博士厚田鎭治君は去る十二月二十八日午前八時三十分逝去せられたり　同氏を喪ひたるは洵に痛惜の至りなり玆に謹んで哀悼の意を表す。